

ねりま Nerima 区報

よりどりみどりねりま

⇒ 11/21 令和3年 (2021年)

第1954号 毎月1日・11日・21日発行

発行/練馬区 編集/広聴広報課
〒176-8501 豊玉北6-12-1
☎3993-1111 (代表) FAX 3993-1194
<https://www.city.nerima.tokyo.jp/>

11/21 公衆浴場で
ちんぴの湯

「ちんぴ」はみかんの皮を乾燥させたもので、この時期にぴったりの季節湯です。



※小学生以下は無料。保護者同伴。

©2011 練馬区ねり丸

そうだ！ 銭湯に行こう



問合せ 中小企業振興係 ☎5984-1483 FAX 5984-1902

2・3面へ続く

※撮影のためマスクを外しています。

5階の窓から



練馬区民のコロナ感染は、昨年3月5日に陽性が確認された方が最初です。今回の第5波で8月12日に記録した304人が最多であり、その後10月11日に0人となりました。今は、ほぼ0人の日が続いています。この間、真に残念ながら、102人の方が亡くなられました。改めて、深く哀悼の意を表し、現在も療養されている皆様の一日も早い回復を祈念申し上げます。

増減は、国全体で見ても同じ傾向です。8月20日の2万5975人をピークに、今は200人前後と落ち着きました。急速に鎮静化した最大の要因がワクチン接種の急進展にあることは、大方の異論がないところだと思えます。今や日本は、先進国でもトップクラスの接種率を誇るに至りました。日本で陽性者数が急減したのは、ワクチンに加え、市民が力を合わせて、総力で立ち向かったからだと思います。ワクチン接種や治療に当たった医療関係者をはじめ、保育所・特養など福祉事業者、都市インフラや公衆衛生・産業関係者など、多くの市民が黙々と職責を果たしました。手前味噌ですが、保健所などの区職員も、公務員の名に値する仕事をしてくれました。ワクチン接種「練馬区モデル」の構築とともに、私は密かに誇りとしています。

問題はこれからです。自画自賛は驕りの印、パンデミックとの闘いで楽観論や精神論は禁物です。何処に落とし穴があるか、人類は未だ知らないのです。私は、人間が前に進む力を信じています。危機を克服するため、区民の皆様とともに、引き続き全力を尽くしてまいります。

練馬区長 前川 輝男

令和3年11月15日

区報は、朝日・産経・東京・日経・毎日・読売の各新聞に折り込んでいます。また、駅・金融機関・郵便局・公衆浴場・ファミリーマート・セブン-イレブン・西友・ライフ・サミット・ヤマダデンキや区立施設にも置いています。

【掲載内容について】 講座・大会などは、原則として区内在住・在勤(在学)の方が対象で、発行日(施設が休館の場合はその翌日)以降に申し込みができます。 ※申し込みは、1人1通です。 ※参加費など記載のないものは無料です。 ※区役所へ郵送する場合の宛先は、郵便番号(〒176-8501)と部署名のみで届きます。